

## 東アジア世界史研究センター 平成20年度活動報告

専修大学社会知性開発研究センター内の一組織として開設された、東アジア世界史研究センターにおいて申請していた研究プロジェクト「古代東アジア世界史と留学生」は、平成19年度に文部科学省によって「私立大学学術研究高度化推進事業」(オープン・リサーチ・センター整備事業)として選定された。本年度はこの事業の2年目となる。

本学は、中国の西北大学に収蔵されて間もない2004年に、日本の遣唐留学生であった「井真成」の墓誌を同大学と共同で発見・確認した。この墓誌の発見は日中両国の研究者に大きな衝撃を与え、2005年1月には両大学の共同プロジェクトとして国際学術シンポジウムなどを開催した。今日もこの墓誌は多くの研究を蓄積し、それらは本研究プロジェクトの目指す留学生の交流に絞った東アジア世界における構造研究の基盤となっている。

こうした東アジアの諸地域は、それぞれの国家がそれぞれの目的をもって交流し、様々な文化・文物の流入を期待した。それを直接担ったのが、留学生であった。昨年度のシンポジウムのなかでも明らかにされたように、この各地域の留学生を通して、東アジア世界史研究に新たな方向を打ち出すべく、当センターは本研究を継続することになっている。

今年度も、Ⅰ. 秦・漢時代から隋・唐時代の中国への東アジアからの交流・留学生の史資料上の全貌を明らかにすること、Ⅱ. 古代の東アジアの国々への影響を「媒介者」を通してその歴史的意義を問いつつ解明すること、Ⅲ. 東アジア世界史について内外の研究者と交流し、若手研究者を育成すること、Ⅳ. 研究成果を公開講座・シンポジウムを通して公開すること、を引き続き研究目標に据えた。この目標の達成のために本プロジェクト内に設置した、①遣唐使井真成墓誌関係史資料の研究、②日本・中国・朝鮮における留学生の史資料についての研究、③政治・制度・文化・思想の接触と受容からみた東アジア世界の研究、④物の移動からみた東アジア世界の研究、という4つのテーマは今年度も鋭意継続されている。

このプロジェクトの運営のために昨年度立ち上げた、「東アジア世界史研究センター委員会」は、今年度も各研究テーマについての計画を策定し、進行状況の検討を行なった。また研究代表者は、東アジア世界史研究センター長として委員会での議論を主導し、各研究テーマの進捗状況と今後の計画について必要な調整を行なうとともに、東アジア世界史研究センターの上部機関である社会知性開発研究センターに報告し、承認を得る役割を円滑に果たしている。さらに、4つの研究テーマのリーダーを中心に組織された「東アジア世界史研究センター運営小委員会」、ならびに研究代表者の補佐としての事務局長および事務室は、各研究テーマと関連した事務的な業務を円滑に進行している。

各研究者も研究を進めるとともに、研究成果を発表するために開かれる公開講座・シンポジウム、『年報』等の編集を分担し、その責任者として、東アジア世界史研究センター委員会において適宜進捗状況を報告している。

以上のような研究体制を土台にして東アジア世界史研究センターでは研究活動を行ない、今年度も、公開講座・国際シンポジウムを開催(各1回)することにより、その研究成果を広く公開

した。さらにこれらにあわせ、我が国の研究者の参加を広く募り、研究会を開催し、本研究センターをこのテーマに関する情報や人的交流のセンターとなるべく努めている。これらの内容は、『年報』を発行することで、研究者のみでなく一般市民にも公開することになっている。本プロジェクト開始以来収集している、留学生についての史資料、研究文献についても、インターネット上で公開する準備を着実に進めている。本年度も、これらの研究の推進、および補助的役割を担う若手研究者の育成のためにリサーチ・アシスタント（R・A、研究補助員）を採用することとした。

具体的な研究活動は、上述した「Ⅰ. 秦・漢時代から隋・唐時代の中国への東アジアからの留学生の史資料上の全貌を明らかにすること」について、本年度も中国・日本・朝鮮・渤海の史資料から留学生の記事を収集する作業に努め、来年度中にはそのデータベースを、一部ではあるが公開できるまでに進行させた。

「Ⅱ. 古代の東アジアの国々への影響を「媒介者」の歴史的意義を問いつつ解明すること」については、公開講座において、遣唐留学生の送り出しと古代日本の政治史との関連性、および留学生が具体的に通った道と留学生の滞在状況についての分析、さらに留学生が、如何なる必要性があつて、実際に何をもたらしたのかを、音楽・楽器を例とし、それと国家祭祀との関係性をも視野に入れた研究が報告され、東アジアの政治史・国家史と留学生の役割との連関を追究することができた。なお、その成果は本『年報』に掲載されている。

「Ⅲ. 東アジア世界史について内外の研究者と交流し、若手研究者の育成をすること」については、国立台湾大学の葉國良教授、ならびに当センターの客員研究員でもある西北大学の王建新教授、韓国の釜山外国語大学の権惠永教授に、今年度の国際シンポジウムの講演を依頼し、当センター研究員ならびに国内の研究者との交流の機会をもった。また若手研究者の育成については、R・Aとして3名を採用して研究の進展させる機会を提供した。また、福島大我R・Aを中国に、小笠原強R・Aを台湾に派遣し、史料の収集と研究者との交流を企画した。さらに昨年度に続いて今年度も、国内の研究者を招聘しての研究会を開催し、東アジア世界史の物の交流などについての理解を深め、情報や人的交流のセンターとしての本センターの役割の一端を果たすことができた。

「Ⅳ. 研究成果を公開講座・シンポジウムを通して公開すること」については、前述した公開講座とともに、国際シンポジウムにおいて、日本国の国号開始年代の問題、長安近郊より発掘された唐代陵墓における「蛮人像」の意味するもの、新羅からの遣唐留学生の実態とその意義、古代日本において必要とされたものと吉備真備のもたらしたものが分析され、東アジア世界における各国の政治史と留学生との問題を直接、議論し、それを公開することができた。新羅と日本（あるいは渤海とも）という、唐（中国）を中心とした同心円の円周上の交流・移動、すなわちともに留学生を出す側の間（東夷間）の交通を問い直すことが、同じ同心円を、唐を中心として各国に放射線状に伸びる線の往復運動と考えられていた従来の東アジア世界史像に、新たな可能性を生み出すのではないかとの研究視点も、このシンポジウムから浮かび上がらせることができた。これは、今後の本センターの方向性とも関連する重要な問題提起である。本『年報』の発行は、これらを広く公開する役割を担っている。

研究環境の整備に関連して、本年度から東アジア世界史研究センター室を開室することができ、昨年度にも増して研究を推進する条件が整備された。さらに研究に不可欠である史料および文献の調査と収集・整理を進めるべく、5年間を通して、日本・中国の文献史料の収集・整理に努め、それに関連する図書・工具類の購入を進めることができた。

なお、本プロジェクトに関する情報発信の手段として、引き続きWeb上にホームページを公開している。研究活動の詳細については、この東アジア世界史研究センターのホームページをご覧ください (<http://www.senshu-u.ac.jp/~off1024/>)。

## (1) 平成20年度 公開講座・国際シンポジウム

平成20年7月26日(土) 生田校舎 参加者 207名

第2回公開講座 「留学生の通った道ともたらしたもの」

司会・進行 飯尾 秀幸 (東アジア世界史研究センター研究員/専修大学教授)  
矢野 建一 (東アジア世界史研究センター研究員/専修大学教授)

講 演

13:00~13:20 荒木 敏夫 (東アジア世界史研究センター代表/専修大学教授)  
「趣旨説明」

13:20~14:20 渡辺 信一郎 (京都府立大学教授)  
「雅楽の来た道」

14:20~15:20 中村 太一 (北海道教育大学釧路校准教授)  
「遣唐使の道—大運河を中心に—」

15:40~16:40 栄原 永遠男 (大阪市立大学大学院教授)  
「宝亀の唐使と遣唐使」

16:40~18:00 討論

平成20年11月22日(土) 神田校舎 参加者 150名

第2回国際シンポジウム 「古代東アジア世界と日本・新羅の留学生」

司会・進行 矢野 建一 (東アジア世界史研究センター研究員/専修大学教授)

講 演

10:00~10:20 荒木 敏夫 (東アジア世界史研究センター代表/専修大学教授)  
「趣旨説明」

10:20~11:50 葉 國良 (国立台湾大学教授)  
通訳: 丸井 憲 (専修大学兼任講師)  
「二重証拠法からみた『日本』国号の中国における出現」

11:50~12:20 質疑応答

13:20~14:20 権 恵永 (釜山外国語大学校教授)

- 通訳：呉吉煥（立教大学兼任講師）  
「8, 9世紀における新羅人の‘西学’活動」
- 14：20～15：20 王 建新（東アジア世界史研究センター客員研究員／西北大学教授）  
「外国人に対する唐王朝の政策」
- 15：40～16：40 大平 聡（宮城学院女子大学教授）  
「留学生・僧による典籍・仏書の日本将来—吉備真備・玄昉・審祥—」
- 16：50～18：00 討論

## （2）平成20年度 研究会

平成21年2月7日（土）神田校舎 参加者 21名

第2回研究会「東アジア世界における人・物の往来と管理」

コーディネーター 皆川 雅樹（専修大学附属高等学校教諭）

荒木 敏夫（東アジア世界史研究センター代表／専修大学教授）

報 告

- 10：30～10：40 飯尾 秀幸（東アジア世界史研究センター研究員／専修大学教授）  
「趣旨説明」
- 10：40～10：50 皆川 雅樹  
「はじめに—東アジア世界における“人・モノ・情報”と遣唐使—」
- 11：00～12：00 河内 春人（明治大学兼任講師）  
「入唐僧と海外情報」
- 13：00～14：00 原 豊二（米子工業高等専門学校准教授）  
「遣唐留学生像の受容と変遷—特に「琴」を意識しつつ—」
- 14：10～15：10 山崎 覚士（大阪市立大学大学院特任講師）  
「宋代明州における対日外交とその位置づけ—牒状を中心に—」
- 15：30～16：30 渡邊 誠（広島大学特別研究員）  
「日本古代の対外交易および渡海制について」
- 16：40～18：00 討論

## （3）調査報告

海外調査記録

氏 名 リサーチ・アシスタント 福島 大我

用 務 地 中国（揚州・上海）

用 務 先 揚州双物館・唐城遺址博物館・大明寺・揚州古運河・隋煬帝陵・上海博物館

出張日程 平成21年2月20日(金)～平成21年2月24日(火)

出張報告

本出張の主な用務地である揚州は、中国大陸の南北を結ぶ大運河と長江の交錯する要衝に位置し、唐代においては国際的な交通の場としても重要な地位にあった。鑑真ゆかりの大明寺が存在し、日本からの遣唐使らが中国大陸に到達した後に集った地でもある。今回は、揚州の上記用務先にて収蔵資料の把握や遺址の実見を行った。また、上海博物館においても、収蔵される隋唐期の文物の調査を行った。関連研究書の収集による研究状況の把握と併せて、隋唐における揚州の国内的・国際的位置づけについて認識を深めることができ、今後の本研究課題の推進に寄与するものと考えている。

氏 名 リサーチ・アシスタント 小笠原 強

用 務 地 台湾

用 務 先 台湾国家図書館、国史館台湾文献館

出張日程 平成21年3月9日(月)～平成21年3月13日(金)

出張報告

本出張では、台湾における古代を中心とした留学生研究や日中関係史研究の状況把握を目的とし、これまで台湾で出版された留学生関係の書籍や論文について、台湾国家図書館、国史館台湾文献館を訪問し、調査を実施した。台湾国家図書館では、関係書籍の確認、特に遣隋使や遣唐使を含めた日中関係史に関する諸論文を閲覧、収集した。また、国史館台湾文献館では史料調査だけでなく、展示されている遺物を見学する機会にも恵まれ、史資料ともに、台湾における研究状況の把握に努めた。

#### (4) 平成20年度 活動記録

平成20年

4月1日 R・A辞令交付

事務、ならびにR・A研究との研究補助体制引継ぎ

4月15日 本年度の本センターの研究目標、各研究班の研究課題の確認

6月3日 第1回運営小委員会

内容 7月26日第2回公開講座の実施確認

実施日程の詳細確認、ポスター・パンフレットの確認

11月22日国際シンポジウムについて

テーマ案の調整、講師との連絡確認、日程・場所の最終確認

7月8日 第2回運営小委員会

内容 国際シンポジウム関連の事務詳細計画の立案

ポスター・パンフレットの発注、案内状・アンケートの作成案

7月22日 第1回センター会議

議題1 各研究班の研究進行状況報告

史資料・文献のデータベース化の進捗状況報告

夏季中のデータベース化のためのアルバイトの予定

2 夏期中の出張について

3 国際シンポジウムについて

テーマ、講演内容、時間等についての運営小委員会案承認

4 平成21年度 物品購入予定について

5 7月26日第2回公開講座について

役割分担（レジュメ印刷・当日の配置）

諸報告 7月26日公開講座における諸報告の概要と意義について（荒木敏夫）

7月26日 第2回公開講座 生田校舎10号館10103教室

9月30日 第3回運営小委員会

内容 11月22日国際シンポジウムについて

報告者の題目の決定、ポスター・パンフレットの確認

『年報』第2号作成について

構成案、総頁数、デザイン、発行日時など

10月7日 第2回センター会議

議題1 11月22日国際シンポジウムについて

準備状況報告

2 各研究班の研究進行状況報告

データベースの作成・公開へ向けて

ホームページ上の公開と、資料集の発行

3 今年度中の出張について

R・A 福島大我、春休み中の中国出張承認

4 『年報』の作成について

構成など運営小委員会の承認

5 2月開催の第2回研究会について

テーマ、報告者等の立案

11月11日 第4回運営小委員会

内容 国際シンポジウムの準備状況

通訳者決定、謝礼、講師対応、当日予定等

『年報』の作成について

部数、予算、掲載論文、締切等の最終案決定

来年度予算について

来年度行事、購入希望物品等の素案決定

来年度センター研究員について

増員せずの方向で確認

R・AよりWeb上のデータベース構成案検討

中国・日本・新羅・渤海、その他（内陸アジア）の年表と史料

11月18日 第3回センター会議

議題1 国際シンポジウムについて

最終確認（会場設営案、日程の詳細、人員配置と役割分担）

2 『年報』の作成について

部数、予算、掲載論文、締切等の最終決定

3 研究会について

日程、報告者の確定、再度確認

4 来年度予算・予定について

予算額の確認

第3回公開講座（7月）・シンポジウム（11月）、研究会（2月）

公開講演会、および月例報告会の新規設定案

5 来年度のセンター研究員について

増員はなしで承認

6 データベースのweb公開における具体的レイアウト（R・Aより）

11月22日 第5回運営小委員会

内容 国際シンポジウム報告者との打ち合わせ

テーマと討論の方向性

11月22日 第2回国際シンポジウム 神田校舎7号館731教室

平成21年

1月13日 第6回運営小委員会

内容 『年報』入稿状況と構成の確認

2月4日 第7回運営小委員会

内容 第2回研究会の日程・場所、レジュメ印刷などの役割分担の確認

来年度の研究計画案

2月7日 第4回センター会議

議題1 来年度リサーチ・アシスタントについて

小笠原強氏、窪田藍氏、福島大我氏の継続で承認

2 年報第2号について

進行予定の確認

3 春休み中の出張について

R・A 福島大我 2月20日～24日 中国（上海・揚州）

R・A 小笠原強 3月9日～13日 台湾

#### 4 来年度行事予定について

公開講座 7月11日 生田校舎

シンポジウム 11月21日 神田校舎

2月7日 第2回研究会 神田校舎7号館771教室

2月20日 海外出張(2月24日まで)

R・A 福島大我

出張先 中国(上海・揚州)

3月9日 海外出張(3月13日まで)

R・A 小笠原強

出張先 台湾